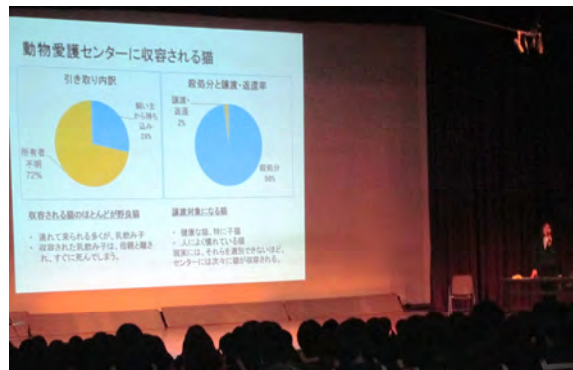


活動名 いのちの教室	団体名	特定非営利活動法人 SPICA
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 山下 育美
	支援金額	25 万円
活動概要		
<p>「いのちの教室」は、犬猫の殺処分の問題を通して、中学・高校生に改めて「命」について考えさせる講義とワークショップである。</p> <p>前半では、動物愛護センターでボランティア活動をする講師が、日本における犬猫の殺処分の現状と動物を取り巻く環境の問題点、そしてボランティア活動を行う上で大切なことなどを、具体例を用いて説明する。</p> <p>後半のワークショップでは、グループで話し合い、殺処分をなくすための解決策を考え出す。その際、生徒たち自身が、どのようにその活動に関わることができるかを考えさせることによって、ボランティア活動に積極的に参加し、毎日の生活の中でも社会貢献を意識できるような生徒を育てたい。</p> <p>◆実施時期 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日 広島県内の中学・高等学校</p> <p>◆参加人数 進徳女子高等学校 希望生徒 11 名と教員 2 名 比治山女子中学・高等学校 929 名 広島市立船越中学校 中学 1 年生 67 名と教員 4 名 いぬ・ねこフェスタ(アニマルケア専門学校)20 名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:1,033 名</p>		



アニマルケア専門学校のイベント風景(一般向け)



講義風景(殺処分の多さに愕然とする生徒)



講師への質問(船越中学校)



講義風景(比治山女子中学校全校生徒)

◆実施に伴う効果

進徳女子高等学校、比治山女子中学・高等学校、広島市立船越中学校の生徒には、後日、アンケートと感想文を書いてもらった。アンケート結果によると、参加した生徒の 89.8%が「参加してとてもよかった」と答え、「まあまあよかった」と合わせると、99.9%が「よかった」と答えた。講義内容についても、約60%が「ほとんど知らなかった」と答え、多くの生徒が感想文で、「現実を知るとは辛かったが、知ることができて良かった」「これまで無関心だった自分を反省した」と記入し、当事業の最大の目的である「知ること」の大切さを実感してくれた。また、「今後、動物愛護センターでのボランティア活動に参加したい」と答えた生徒は 64%と高く、感想文にも「ぜひ参加したい」と記入した生徒が多く見られ、積極的なボランティア活動と社会貢献を促す事ができたといえる。

◆苦労した点

「いのちの教室」の受け入れ校を探すことに苦労した。学校訪問をして趣旨や講義内容を説明すると、多くの先生が共感してくれるが、学年や学校としてまとまった時間を取りにくいなどの理由で、断られることが多くあった。今後は、学校全体のカリキュラムに入りやすいように、早い段階での学校訪問をしようと考えている。また、カリキュラムに入りにくかったことから、当初予定していたワークショップを開くことができなかった。生徒から直接質問や意見を聞く時間が持てなかったことは、大きな反省点でもある。一度きりの講義ではなく、継続的に、生徒たちが参加できるプログラムを用意していきたい。

◆今後の課題・発展の方向性

今年度実施した学校の生徒たちの多くが、アンケートで「ボランティア活動に参加したい」と答えてくれた。しかし、中学生・高校生が自分たちだけで行動するのは難しいようだ。今後は、SPICA として、中学生・高校生が積極的にボランティア活動に参加できるシステムを組み立てたいと考えている。現時点では、広島市動物愛護センターでの譲渡犬の散歩ボランティア、呉市動物愛護センターでの体験ボランティア、西区観音にあるピースワンコ・ジャパンさんの譲渡センターでの犬の散歩ボランティアを候補と考えている。

また、「いのちの教室」の内容を学校での道徳教育などで発展させてもらい、文化祭での展示や舞台発表などにも役立ててもらえるような仕組みも構築したい。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度、延べ 1000 人以上の方に、この「いのちの教室」を聞いてもらうことが出来ました。殺処分という、できれば目をそむけたい現実をお伝えしましたが、みなさん一様に「聞いてよかった」と答えてくれました。現実を知ることの大切さ、そして知った上で自分に何ができるかをしっかりと考えてもらえたと思っています。

生徒たちが書いてくれた感想文は全て読みましたが、その多くは B5 版にびっしりと真剣な思いが綴られていました。ペットを飼っている生徒も多かったようで、自分の飼っている犬や猫のことを思い、涙が止まらない生徒もいたようでした。しかし同時に、「ペットを飼ったことがないけれど、これから飼うときには動物愛護センターから引き取りたい」とか「(アレルギーなどで)ペットは飼えないが、動物たちがこんな状態におかれていることは許せない」といった意見が多かったことは意外な反応でした。これは、「いのちの教室」が、単に「犬や猫がかわいい」というだけでなく、「いのち」そのものについて考える契機になったことを表していると思います。

また、この「いのちの教室」は、現在の学校教育に絶対に必要なプログラムであるという自信はありましたが、なかなか動物愛護の NPO 団体というだけで、学校に受け入れてもらうことは難しかったと思います。しかし、マツダ財団様より支援を受けていることを学校に伝えることにより、「それならば安心です」と、信頼してもらうことができました。助成金をいただけたことはもちろんですが、マツダ財団の支援を受けているという事実は、この活動の社会的な信頼性を高め、根底の部分で大きな支えとなったと思っています。本当にありがとうございました。